

# 医療・介護の提供体制の将来像の例

～機能分化し重層的に住民を支える医療・介護サービスのネットワーク構築～

○日常生活圏域内において、医療、介護、予防、住まいが切れ目なく、継続的かつ一体的に提供される「地域包括ケアシステム」の確立を図る。

○小・中学校区レベル(人口1万人程度の圏域)において日常的な医療・介護サービスが提供され、人口20～30万人レベルで地域の基幹病院機能、都道府県レベルで救命救急・がんなどの高度医療への体制を整備。

## 医療提供体制の充実と重点化・効率化

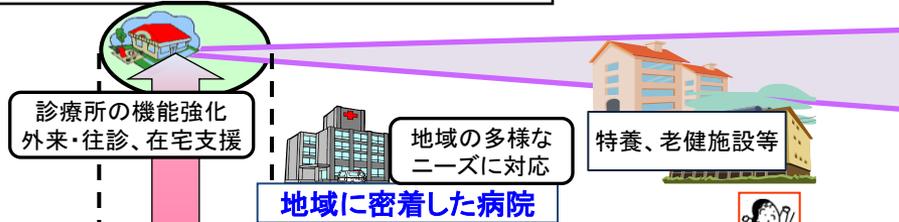
都道府県域から市町村域まで、重層的に医療サービスを提供

## 地域包括ケアの実現(包括的ケアマネジメントの機能強化)

※ 体制整備は被災地のコミュニティ復興において先駆的に実施することも検討

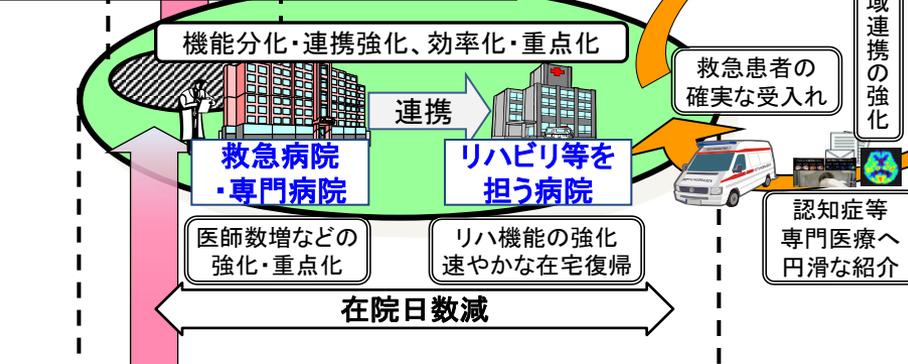
### 市町村レベル:

主治医(総合医を含む)による日常の診療対応



### 人口20～30万レベル:

救急病院など地域の基幹病院を中心とする医療機関のネットワーク



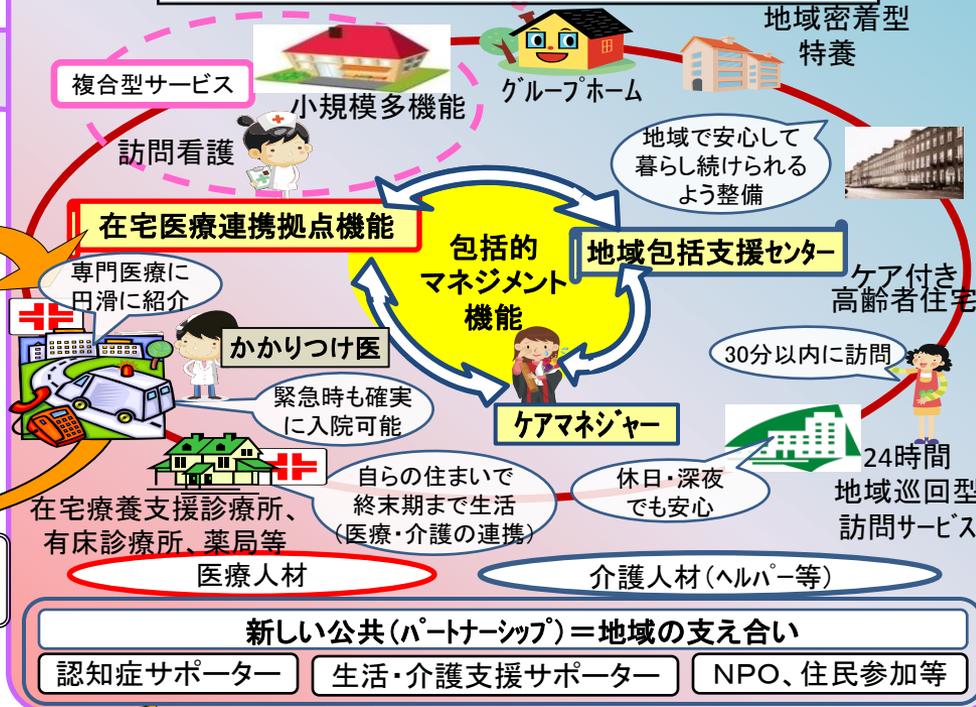
### 都道府県レベル:

救命救急、高度な医療など広域ニーズへの対応体制整備



### 小・中学校区レベル(※):

日常生活の継続支援に必要な医療・介護サービス提供体制



新しい公共(パートナーシップ)＝地域の支え合い  
認知症サポーター 生活・介護支援サポーター NPO、住民参加等

※ 人口1万人程度の圏域。